このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書の内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

特　長

- 蛇腹折りたたみ式で、薄型・軽量。携帯性に優れています
- 高画質80mm F3.5のEBC FUJINONレンズを搭載
- 6×7cm判、6×6cm判の画面サイズ切り替えにより、さまざまな使用目的に対応
- 明るく、見やすい二重像合致式連動距離計内蔵
- 露出制御は、絞り優先AEとマニュアル露出合わせが可能
- 電子制御式レンズシャッターの採用で、長秒時露光もAE制御を実現

同梱品

この製品には、カメラ本体以外に以下の付属品が同梱されています。箱を開けたときにご確認ください。

- □ リチウム電池　CR2　1本
- □ ネックストラップ
- □ 使用説明書
- □ 保証書

目　次

準備編

フィルムの装てんと各部の操作

この使用説明書の表記について

☞ ： 参考になる情報などの記載

! ： 注意などの記載

安全にご使用いただくために

- この製品および付属品は、写真撮影以外の目的に使用しないでください。
- 製品の安全性には十分配慮しておりますが、下記の内容をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- この説明書はお読みになった後で、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 警　告	⚠ 注　意
この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警　告
絶対に分解しないでください。
カメラ(電池)が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、ただちに電池を取り出してください。発火ややけどの原因になります(電池を取り出す際、やけどには十分ご注意ください)。
カメラを水中に落としたり、内部に水または金属や異物などが入ったときは、ただちに電池を取り出してください。発熱･発火の原因になります。
カメラは乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息の原因になります。

⚠警　告

電池の分解、加熱、火中への投入、充電、ショートは絶対にしないでください。破裂の原因になります。

指定以外の電池を使わないでください。発熱･発火の原因になります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤って飲み込む原因になります。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

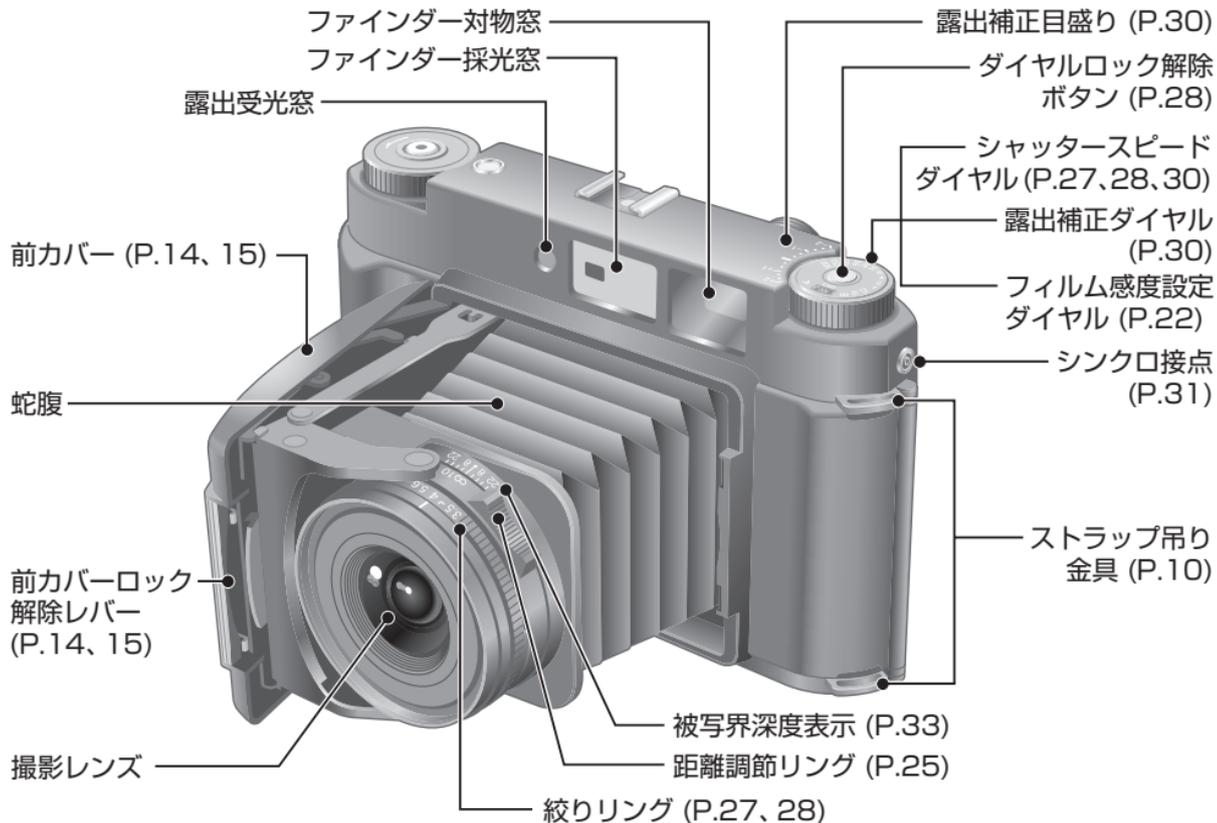
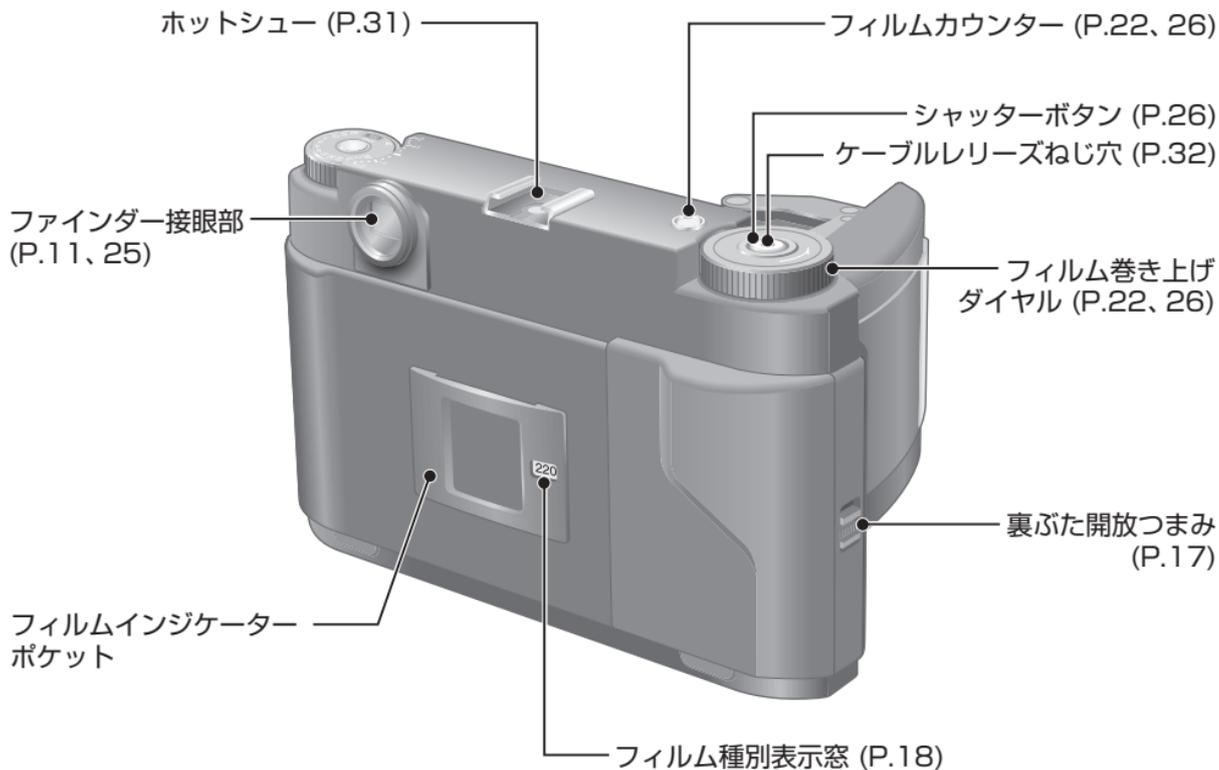
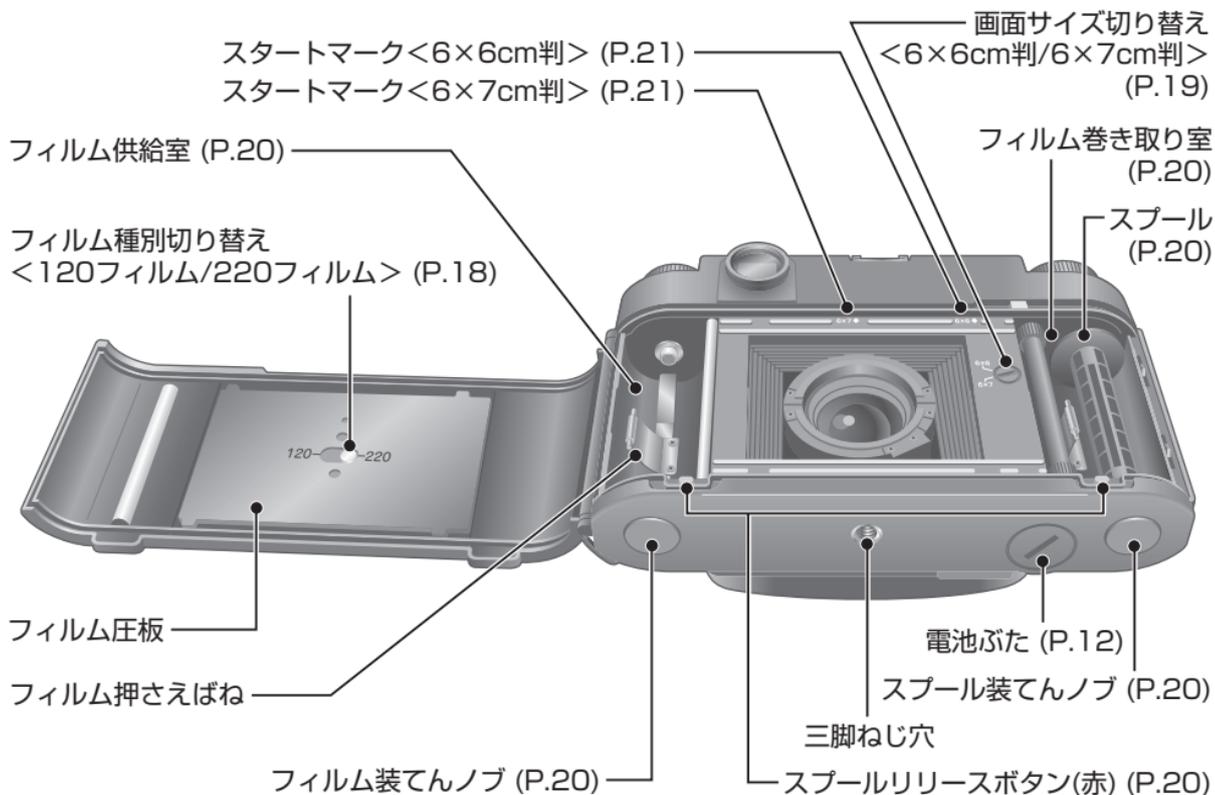
⚠注　意

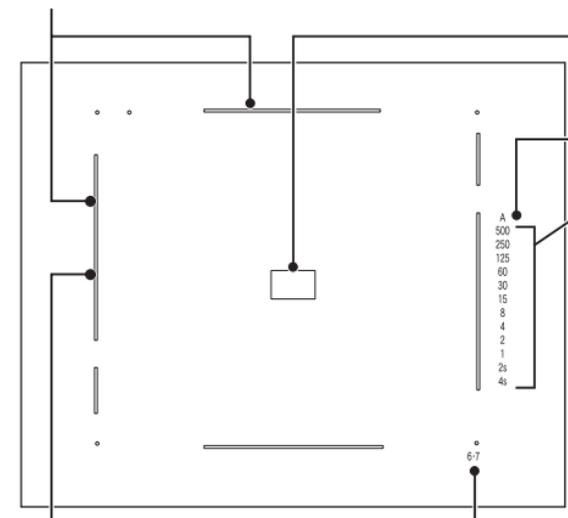
電池の⊕⊖を誤って装てんしないようにご注意ください。電池の破裂、液もれにより、発火、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

各部の名称

＊(　)内のページに詳しい説明があります。

ホットシュー (P.31)
フィルムカウンター (P.22、26)
シャッターボタン (P.26)
ケーブルレリーズねじ穴 (P.32)
ファインダー接眼部
(P.11、25)
フィルム巻き上げ
ダイヤル (P.22、26)
220
裏ぶた開放つまみ
(P.17)
フィルムインジケーター
ポケット
フィルム種別表示窓 (P.18)

画面サイズ切り替え
<6×6cm判/6×7cm判>
(P.19)
スタートマーク<6×6cm判> (P.21)
スタートマーク<6×7cm判> (P.21)
フィルム巻き取り室
(P.20)
フィルム供給室 (P.20)
スプール
(P.20)
フィルム種別切り替え
<120フィルム/220フィルム> (P.18)
120
220
6×7
6×6
6×6
6×7
フィルム圧板
電池ぶた (P.12)
フィルム押さえばね
スプール装てんノブ (P.20)
三脚ねじ穴
フィルム装てんノブ (P.20)
スプールリリースボタン(赤) (P.20)

ファインダー内表示

可動フレーム (P.19、24)

二重像合致部 (P.25)

絞り優先AE表示 (P.27)

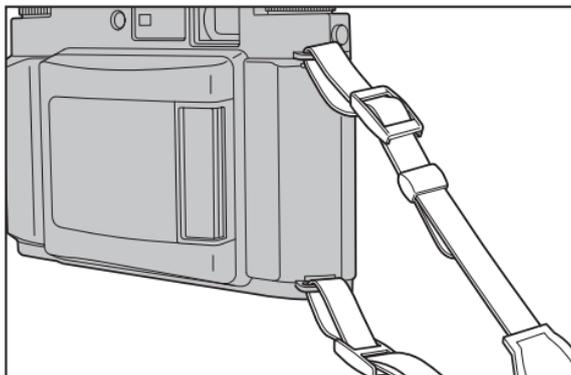
シャッタースピード表示(P.27、29)

＜絞り優先AE時＞
撮影時のシャッタースピードが点灯表示されます。
＊カメラが測光した適正露出値です。

＜マニュアル露出時＞
設定したシャッタースピードが点灯表示されます。

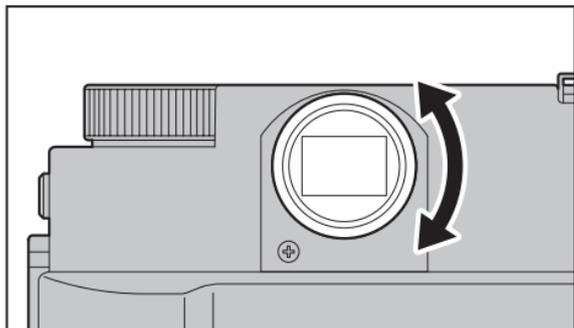
- 点灯表示以外に、他のシャッタースピードが点滅表示されている場合：適正露出が得られません。
  ＊カメラが測光した適正露出の値が点滅表示されます。
  →点灯表示のみになるようにシャッタースピードか絞りを調節すると、適正露出が得られます。

“500”が速い点滅：測光範囲外（オーバー）です。
“4S”が速い点滅：測光範囲外（アンダー）です。
→ 数字が点灯するように、露出を調整してください。

1.ストラップの取り付け

ストラップ吊り金具にストラップを通します。
ちょうどよい長さにバックルで調節します。

市販のストラップをご使用になる場合は、ストラップの強度をご確認の上、ご使用ください。携帯電話、PHS用ストラップは軽量機器用ですので、使用しないでください。

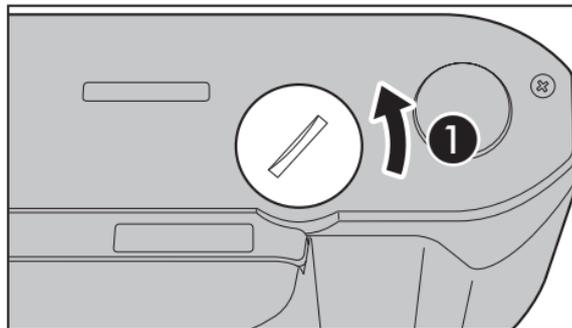
2. ファインダーアイピースの着脱

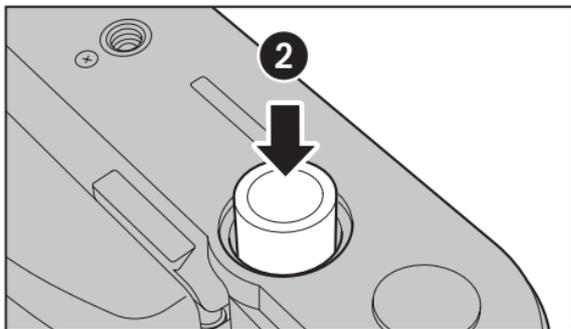
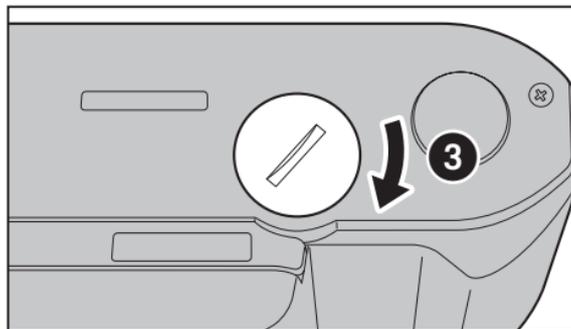
ファインダーアイピースは、ねじ込み式(M19)です。

取り付けるときは、時計回りに回します。
取り外すときは、反時計回りに回します。

ファインダー像がはっきり見えない場合は、視度補正レンズ(別売)をご使用ください。
近視の方は ⊖ 側、遠視の方は ⊕ 側が適します。

準備編

3.電池を入れる

● 使用する電池
リチウム電池
CR2（3V） 1本

❶ 電池ぶたをコインなどで反時計回りに回して外します。

- 新品電池では約2,000コマ（常温）の撮影ができます（当社試験条件による）。
- 旅行やたくさん写真を撮られるときは、万一の場合に備えて予備の電池をご用意ください。特に海外では、地域によっては電池の入手が困難な場合があります。

❷ 電池の⊕側を下にして入れます。

❸ 電池ぶたを押しながら時計回りに回し、ロックします。

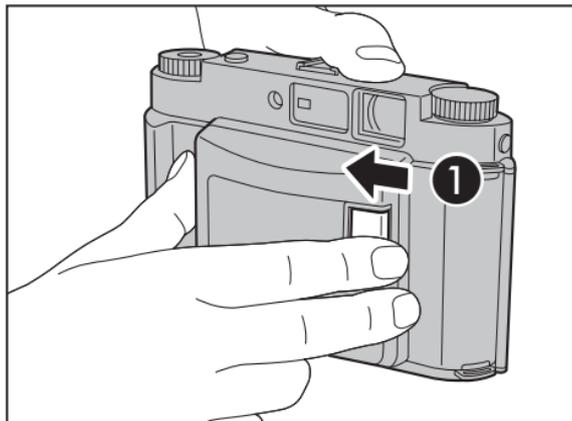
● 電池容量について

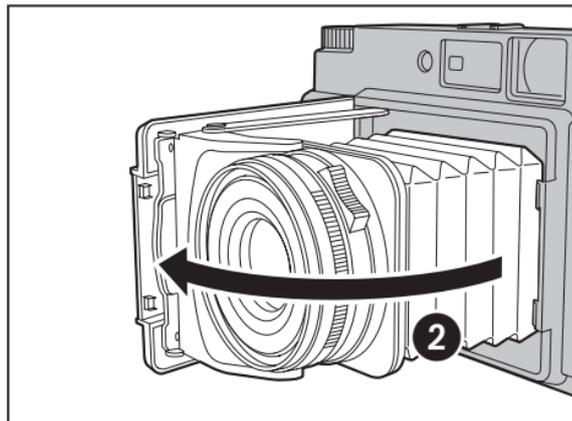
シャッターボタンを半押しして、ファインダー内のＡおよびシャッタースピード表示の点灯・点滅で電池容量を確認できます。

設定した表示（A・シャッタースピード）が点灯：電池容量はOKです。
設定した表示（A・シャッタースピード）が速い点滅：電池容量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
設定した表示（A・シャッタースピード）が点灯しない：電池容量がなくなっています。新しい電池と交換してください。

＊この状態でシャッターボタンを押すことができますが、シャッター羽根は開きませんので、未露光になります。
＊フィルムを巻き上げることはできますが、フィルムを巻き上げた後にシャッターボタンを押すと、未露光になりますので、ご注意ください。

4. 前カバーの開け方（電源ON）

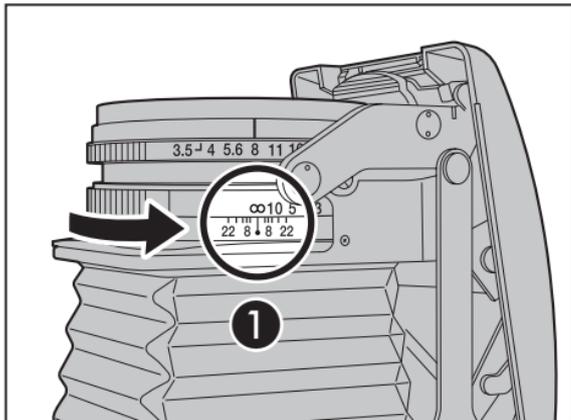
前カバーを開けると、電源が入ります。

❶ 前カバーロック解除レバーを矢印方向にスライドさせます。

☞ 前カバーのロックが解除されます。

❷ 前カバーを止まるまで引き起こします。

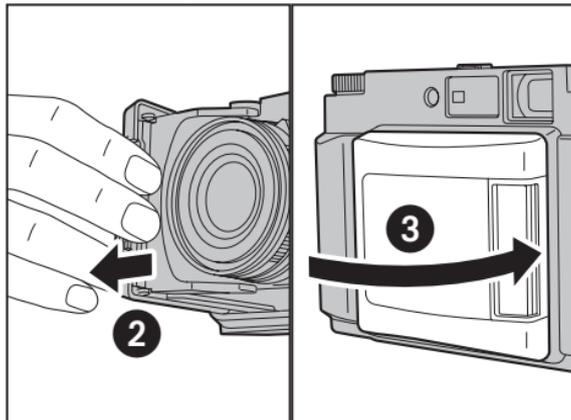
☞ レンズが撮影状態にセットされます。

前カバーは静かに開けてください。速く開けると、蛇腹が変型することがあります。

5. 前カバーの閉め方（電源OFF）

前カバーを閉めると、電源が切れます。

❶ 距離調節リングを"∞"に戻し、レンズを縮めます。

距離調節リングが"∞"になっていないときは、レンズが繰り出しています。
本機では、破損防止のため、距離調節リングが"∞"になっていないと、前カバーのロックが解除されず、折りたためない構造になっています。レンズを繰り出したまま無理に折りたたむと、カメラが破損することがあります。

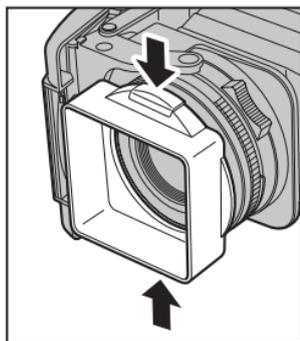
前カバーを閉めると、シャッターボタンはロックされ、シャッターは切れません。

❷ 前カバーロック解除レバーを矢印方向に引きます。

☞ 前カバーのロックが解除されます。

❸ 前カバーロック解除レバーを引いたまま、前カバーを折りたたんで閉めます。

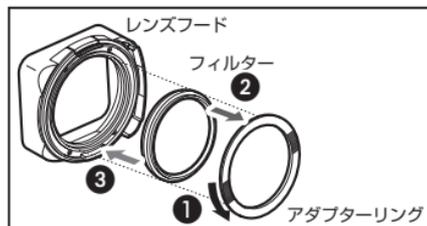
レンズフードやフィルターなどをレンズに取り付けたまま、前カバーを閉めることはできません。無理に折りたたむと、カメラが破損することがあります。

6. レンズフードの着脱

レンズフードは別売です。

❶ レンズフードの上下のノブを押さえながら

❷ レンズフードをレンズに取り付けます。

レンズフードの向きに注意して、取り付けてください。
無理に取り付けると、破損するおそれがあります。

○ フィルター取り付けアダプターリング

❶ レンズフード後面のアダプターリングを矢印方向に回して外します。

❷ アダプターリングにフィルターを取り付けて、

❸ レンズフード後面から取り付けます。

7. フィルターについて

▌使用できるフィルターについて

■ レンズフードにフィルターを取り付ける場合

40.5mm サイズのフィルターをご使用ください。

- PL フィルターなどフィルターリングの厚いフィルターは、画面がケラレます。
- PL フィルターは、広角レンズ用の薄枠タイプをご使用ください。
- レンズフードに薄枠タイプの PL フィルターを取り付け、その状態で目視で効果を確認してレンズフードをカメラに取り付けると便利です。

■ レンズの鏡筒に直接フィルターを取り付ける場合

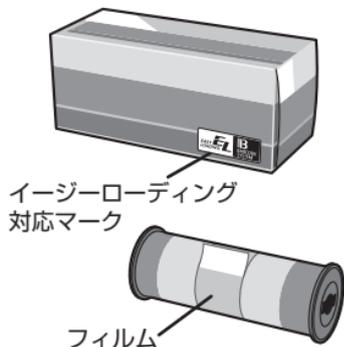
58mm サイズのフィルターをご使用ください。

- 58mm サイズのフィルターを取り付けて、レンズフードを装着すると、レンズフードの位置決めができません。レンズフードが曲がって取り付けられると、画面がケラレることがありますので、推奨いたしません。
- PL フィルターなど、フィルターリングの厚いフィルターを取り付けて、レンズフードを装着すると、画面がケラレます。広角用の薄枠タイプの PL フィルターはケラレません。

レンズフードやフィルターなどをレンズに取り付けたまま、前カバーを閉めることはできません。無理に折りたたむと、カメラが破損することがあります。

フィルムの装てん

使用するフィルム

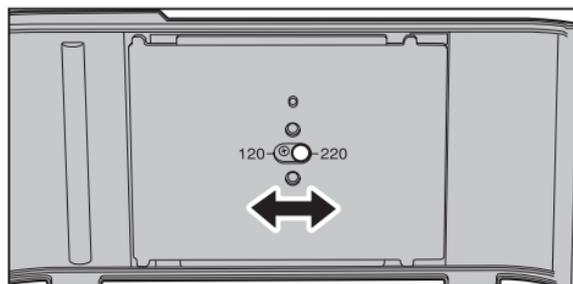
120/220フィルム

イージーローディング に対応

リーダーペーパーの先端の穴をスプール溝に設けたフックに引っ掛けるだけで、簡単・確実にフィルム装てんできる機構です。遮光紙のたるみやフィルムの巻き太りを抑え、確実に装てんできます。

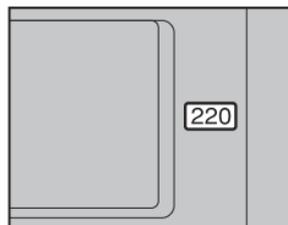
裏ぶたの開閉

1. 裏ぶた開放つまみをスライドさせ、
2. そのまま上に上げます。
3. 裏ぶたを閉じる場合は、パチンと音がするまで、静かに裏ぶたを押してください。

- フィルムの装てん・取り出しは、直射日光を避けて行ってください。
- フィルムを装てん・取り出すときに、内部にゴミやホコリが入らないようにご注意ください。ゴミやホコリが入ってしまったら、34ページの「カメラの保守・点検、取扱上のご注意」を参考に、カメラを清掃してください。
- 撮影途中のフィルムが入っているときは、絶対に裏ぶたを開けないでください。

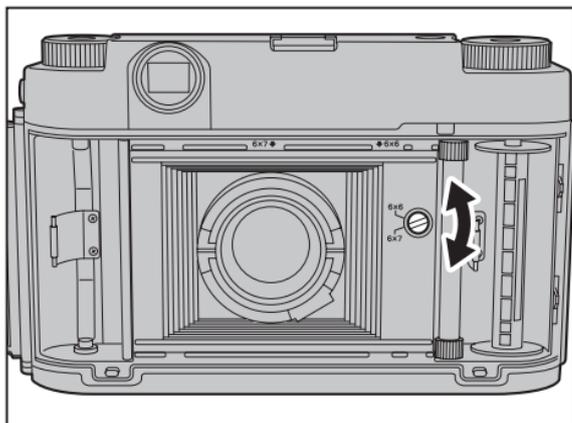
フィルムの種別（120/220）の切り替え

裏ぶたのフィルム圧板を指で押さえながら、使用するフィルム表示の方にフィルム種別切り替えがくるように動かします。

☞ フィルム種別切り替えに合わせて、ピント位置とフィルムカウンターが自動的に切り替わります。

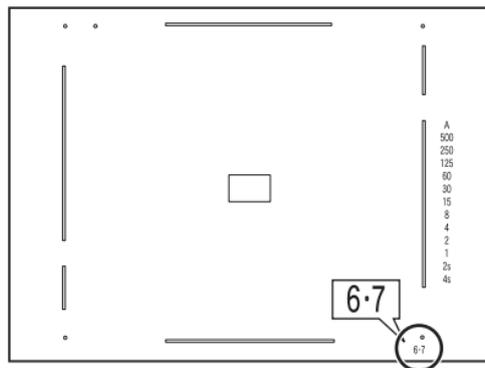
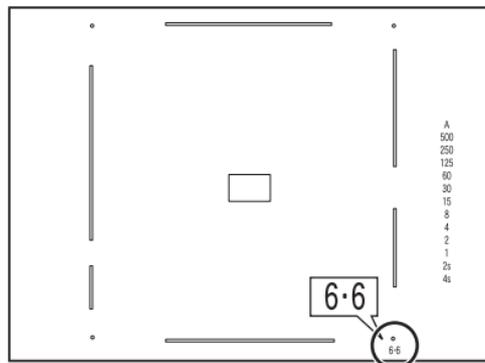
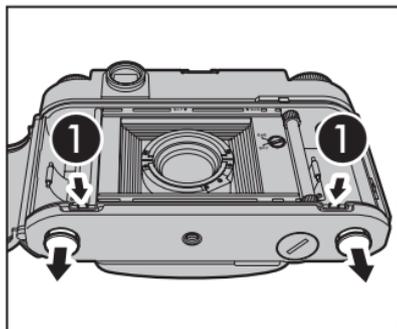
設定したフィルムの種別が裏ぶたのフィルム種別表示窓に表示されます。

● フィルム撮影枚数

	120フィルム	220フィルム
6×7cm判	10枚	20枚
6×6cm判	12枚	24枚

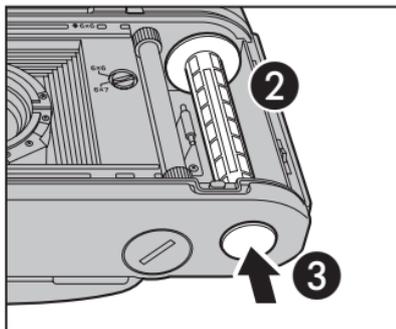
120 1/2フィルム（6×6cm判6枚撮り）を使用する場合は、フィルム圧板を“120”にセットします。
ただし、フィルムカウンターは連動しませんので、6×6cm判は6枚撮影後、6×7cm判は5枚撮影後もフィルムは空送りしません。規定枚数撮影後は空写しして、フィルムを巻き上げてください。

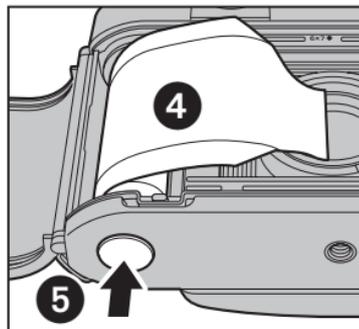
画面サイズ(6×7cm判／6×6cm判)の切り替え

裏ぶたを開けて、
画面サイズ切り替えをコインなどで回して設定します。

☞ 6×6cm判に設定すると、アパーチャーの両側からマスクが出ます。
画面サイズを切り替えると、フィルムカウンター、ファインダー内のブライトフレームが自動的に切り替わります。

■ 6×7cm判の場合

■ 6×6cm判の場合

スプールとフィルムの装てん

❶ 裏ぶたを開け、スプールリリースボタン(赤)を押します。

☞ スプール(フィルム)装てんノブが出ます。

❷ 空スプールをフィルム巻き上げ室(右側)に装てんします。

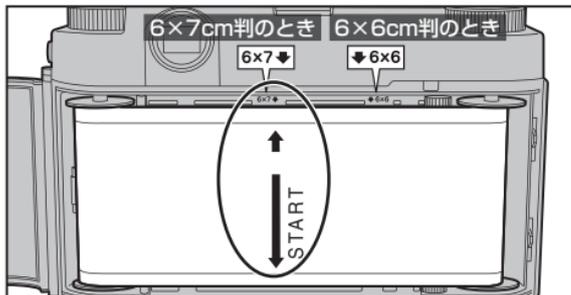
❸ スプール装てんノブを押し戻します。

❹ フィルムのシールテープをはがし、フィルムをフィルム供給室(左側)に装てんします。

❺ フィルム装てんノブを押し戻します。

フィルムの装てんは、必ず前カバーを閉じた状態で行ってください。

カメラ上部のスプール軸を垂直にして、スプールの溝に合わせると簡単に装てんできます。

フィルムのスタートマーク合わせ

フィルムのスタートマークとカメラの各サイズのスタートマークを合わせます。

巻き太り防止のために

フィルムをしっかり、ゆるまないように巻き上げるには、リーダーペーパーが浮き上がらないように、供給側のリーダーペーパーを軽く指で押さえながら強く巻き締めてください。

220フィルムのスタートマーク位置について

220フィルムは、遮光性確保のために、リーダーペーパーが120フィルムよりも長く、また特殊な機器用に正規のスタートマークより手前に点線表示があります。この点線マークは、本機のスタートマークではありませんので、矢印のスタートマークまでフィルムを送ってください。

■ フジフイルム「イージーローディングフィルム」を使用する場合

①リーダーペーパーの先端にある丸い穴(5mm径)を空スプールの溝に差し込み、スプールの中のフックに引っ掛けます。

②引っ掛かったことを確認して、フィルム巻き上げダイヤルを回し、リーダーペーパーのスタートマークをカメラのスタートマークに合わせます。

■ フジフイルム以外のフィルムを使用する場合

①リーダーペーパーの先端を空スプールの溝の長い方に差し込みます。

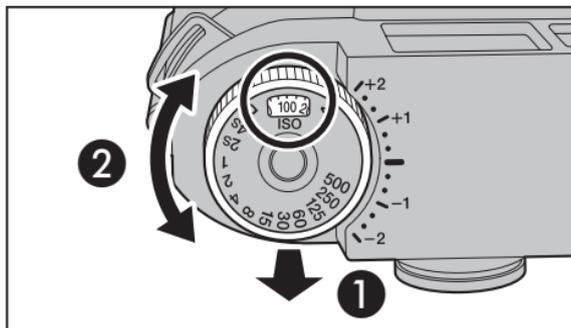
②短い溝からリーダーペーパーの先端が出るまで押し込みます。

③溝から出した先端を内側へ折り込みます。

④ゆっくりとフィルム巻き上げダイヤルを回して、フィルムを巻き上げてみて、空回りせずにペーパーがスプールに巻き取られていくことを確かめてから、スタートマークまでフィルムを送ります。

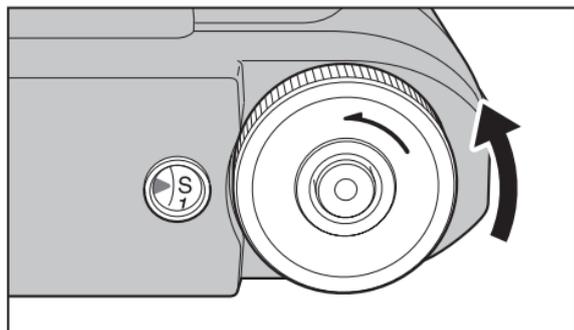
フィルム感度の設定

ISO25～3200（1/3ステップ刻み）で設定できます。

フィルムを装てんしたら、必ず使用するフィルムの感度に設定してください。

❶ フィルム感度設定ダイヤルを引き上げながら、

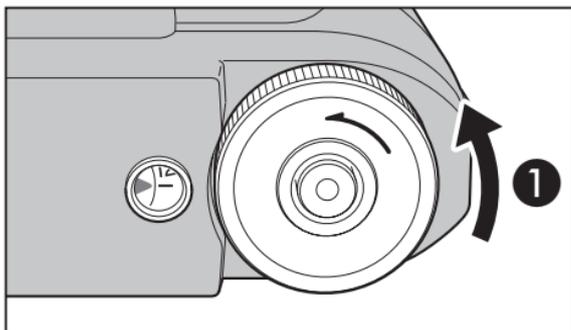
❷ ダイヤルを回して、使用するフィルム感度を指標に合わせます。

確実にクリックのある目盛りにセットしてください。目盛り以外の位置に合わせると、正確な露出が得られません。

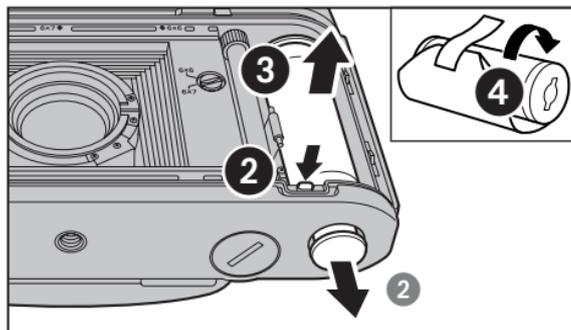
フィルムの巻き上げと１枚目のセット

フィルムを装てんし、裏ぶたを閉めたら、フィルム巻き上げダイヤルが止まるまで、フィルムを巻き上げます。

☞ フィルムカウンターが“S”→“１”になったら、撮影可能状態です。

- 前カバーは開いていても閉まっていても、フィルム巻き上げダイヤルは回せます。
- 前カバーが開いた状態でフィルムを装てんした場合、フィルムカウンターが“S”→“１”になるまでシャッターボタンを押さないでください。１枚目のコマがケラレたり、画面の重なりが生じることがあります。

フィルムの取り出し

規定撮影枚数の撮影が完了したら、

❶ フィルムが完全に巻き取られるまで、フィルム巻き上げダイヤルを回します。

☞ リーダーペーパーの末端がフィルム供給側のスプールから外れると、巻き上げが軽くなります。
軽くなって2〜3回空転させると、確実にフィルムの巻き取りが完了します。

裏ぶたを開け、

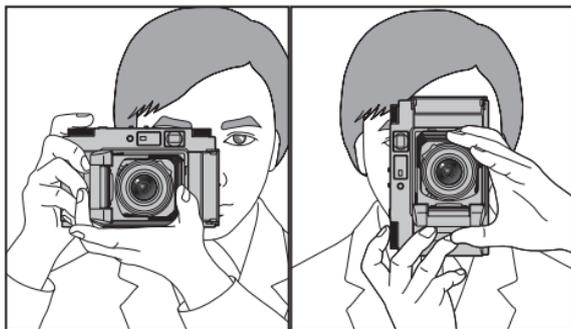
❷ スプールリリースボタンを押して、

❸ 撮影済みフィルムを取り出します。

❹ 巻きゆるみがないように、エンドシールでしっかり留めます。

次の撮影準備のため、空スプールをフィルム巻き取り室側に移しておきます。

撮影したロールフィルムは、遮光紙に巻かれていますが、万一ゆるみがあると、隙間から感光することがあります。明るいところに放置せず、袋やバッグなどの暗所に保管してください。

構え方

両脇を締め、カメラを両手でしっかり持って構えます。

● 撮影距離

0.9m～∞

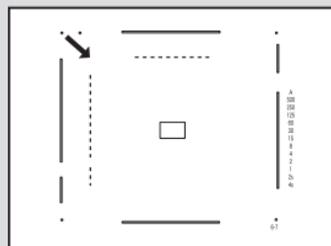
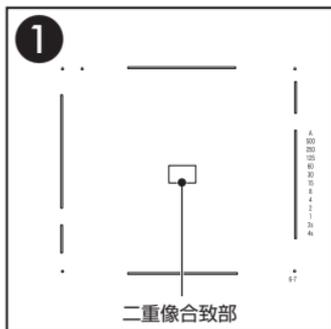
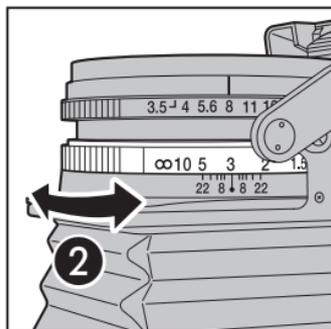
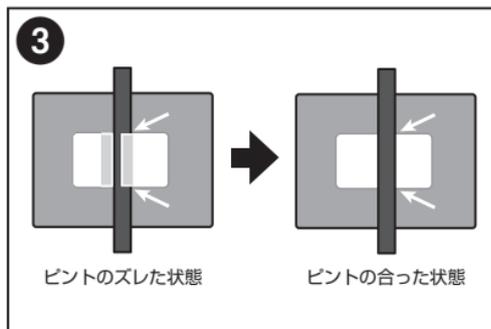
● 視野率

3mで約88%です。

● ファインダーの視野とパララックス(視差)

ファインダーのブライトフレーム内で構図を決めます。

☞ ピント調節により、ブライトフレームの上辺と左辺が自動的に動き、パララックスが補正されます。

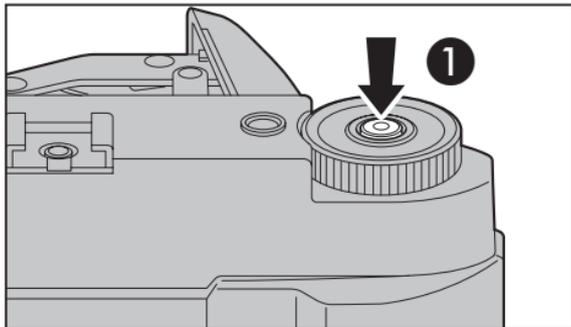
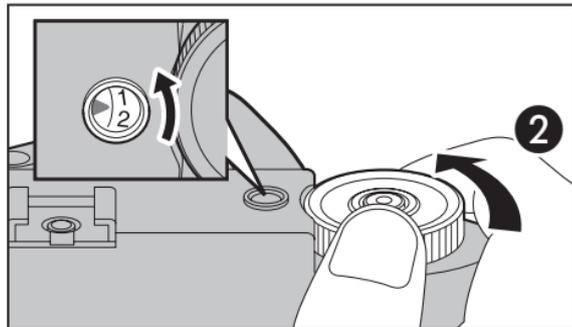
パララックスもほとんど起こらず、ブライトフレーム内の被写体は、実画面のほぼ中央に写ります。

ピントの合わせ方

❶ ファインダーをのぞきながら、主被写体を画面の中央にとらえます。

❷ 距離調節リングを回して、

❸ 中央の黄色の部分に見える被写体の二重像が合致するようにします。

ファインダーを斜めからのぞくと、測距精度が低下します。ファインダー接眼部の真正面からのぞいてください。

赤外フィルムのピント調整

通常のフィルムは、可視光線でピントが合いますが、赤外線は可視光線と焦点を結ぶ位置がズレます。赤外撮影の場合は、距離計でピントの合った距離を、距離指標の隣にある赤マーク(赤外補正マーク)にずらしてください。赤外線による焦点移動量が補正されます。

シャッター操作とフィルム巻き上げ

フィルムカウンターが“1”以降になっていれば、シャッターボタンを押すと、シャッター羽根が開閉します。

❶ シャッターボタンを押します。

❷ フィルム巻き上げダイヤルを矢印方向に止まるまで回します。

☞ フィルムが巻き上げられます。
フィルムカウンターが1ずつ進みます。

❗ カメラブレはシャープネスを劣化させる原因となります。カメラをしっかりホールドし、安定させ、静かにシャッターボタンを押してください。
また、室内や夜景などの撮影で、シャッタースピードが1/30秒より遅くなるときは、できるだけ三脚とケーブルレリーズをご使用ください。

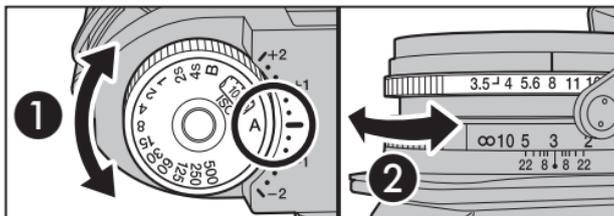
❗ 空シャッターは、裏ぶたを開けた状態でないと切れません(→34ページ)。また、空シャッター時に巻き上げ操作の必要はありません。

＊フィルム巻き上げダイヤルは矢印方向と反対方向にも作動し、小刻み巻き上げも可能です。

フィルム巻き上げダイヤルは、親指と人差し指でつまみ、ゆっくりと回してください。急な巻き上げ操作は、画面間隔のバラツキや画面の重なりなどの原因となります。

露出の決め方

絞り優先AE

絞りを設定すると、適正露出になるように、カメラが自動でシャッタースピードを設定します。

❶ シャッタースピードダイヤルを“A”に合わせます。

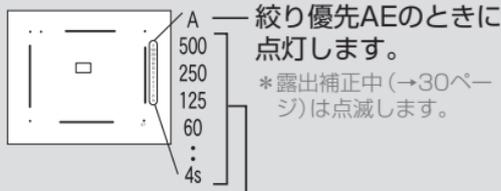
☞ “A”にセットすると、シャッタースピードダイヤルはロックされます。

❷ 絞りリングを回し、設定したい絞り値を指標に合わせます。

☞ 数字間のクリックは、1/2絞りです。

クリックのあるところにセットしてください。中間にセットすると、露光不良の原因となります。

ファインダー内表示について

＊シャッターボタン半押し時

絞り優先AEのときに点灯します。

＊露出補正中（→30ページ）は点滅します。

シャッタースピード表示

撮影時のシャッタースピードが点灯表示されます。

＊カメラが測光した適正露出値です。

“500”が速い点滅：測光範囲外（オーバー）です。

“4S”が速い点滅：測光範囲外（アンダー）です。

→数字が点灯するように、絞りを調整してください。

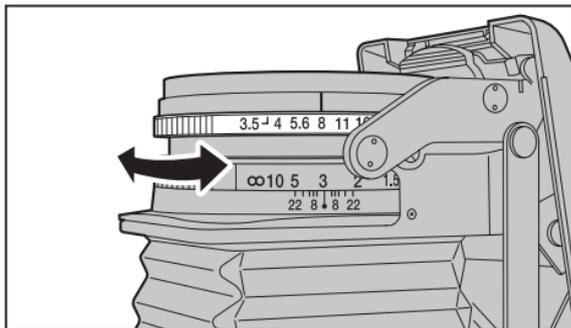
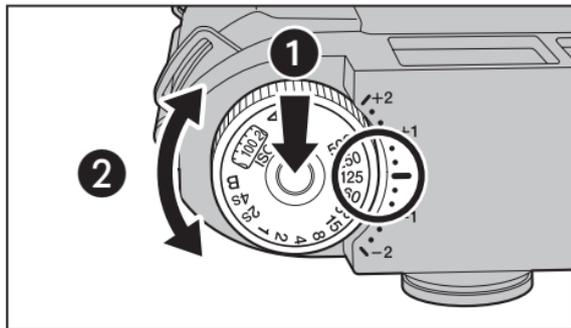
シャッターボタンを半押しした状態で、AEロックされます。半押しをしたままカメラの向きを変えても、測光したときの露出値が保持されます。

マニュアル露出　～絞りとシャッタースピードの設定～

＜絞りの設定＞

絞りリングを回し、設定したい絞り値を指標に合わせます。

☞ 数字間のクリックは、1/2絞りです。

クリックのあるところにセットしてください。中間にセットすると、露光不良の原因となります。

＜シャッタースピードの設定＞

❶ ダイヤルロック解除ボタンを押しながら、

❷ 設定したいシャッタースピードを指標に合わせます。

☞ シャッタースピードダイヤルは、1ステップごとのクリックストップ付きです。

シャッターボタンを押し、シャッター羽根が開いているとき（露光中）にフィルムを巻き上げると、画像が流れます。特に露光時間が長くなるとき（B（バルブ）撮影、シャッタースピードを長秒時にセットしたとき、絞り優先AEでシャッタースピードが遅くなるとき）にはご注意ください。

ファインダー内表示について

＊シャッターボタン半押し時

A — マニュアル露出のとき、“A”は表示されません。

500 250 125 60 30 15 8 4 2 1 2s 4s — シャッタースピード表示

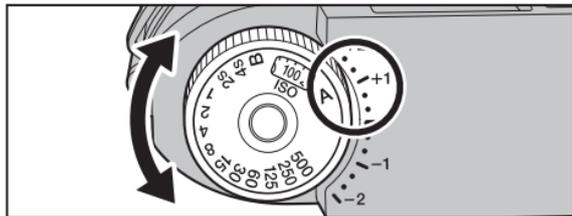
設定したシャッタースピードが点灯表示されます。

- 点灯表示以外に、他のシャッタースピードが点滅表示されている場合：適正露出が得られません。
  ＊カメラが測光した適正露出の値が点滅表示されます。

  →点灯表示のみになるようにシャッタースピードか絞りを調節すると、適正露出が得られます。

“500”が速い点滅：測光範囲外(オーバー)です。
“4S”が速い点滅：測光範囲外(アンダー)です。
→数字が点灯するように、露出を調整してください。

露出補正

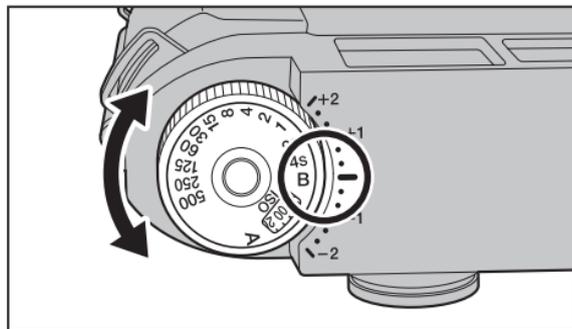
絞り優先AE撮影時は、露出補正できます。
±2(1/3ステップ単位)で設定できます。

露出補正ダイヤルの“A”を設定したい露出補正値に合わせます。

☞ ファインダー内表示の“A”が点滅します。

マニュアル露出時には露出補正できません。

受光性特性

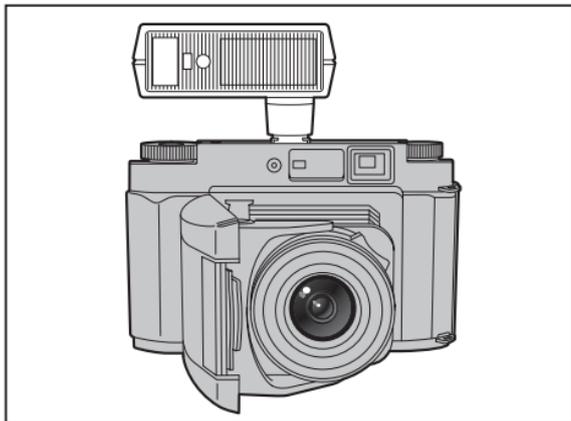
本機は、中央部重点平均測光を採用しています。
(6×7cm判の長辺・短辺の約1/2の中央範囲を測光)
順光、反逆光での露出精度は高く、露出補正の必要はありませんが、逆光や強いトップライトの被写体では、露出に影響が出ます。その場合は、カメラを下向きにしてAEロックしたり、露出補正してください。

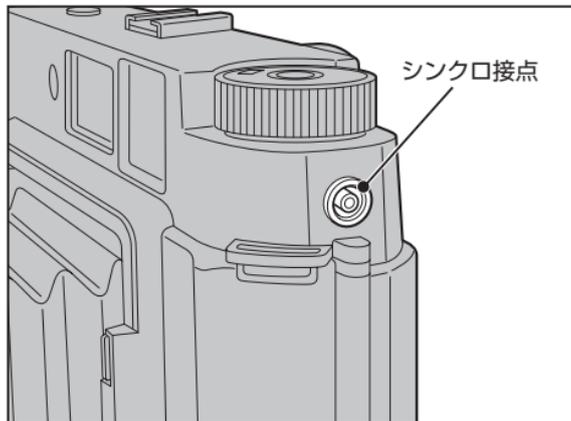
B(バルブ)撮影

1. シャッタースピードダイヤルを“B”に合わせます。
2. シャッターボタンを押すと、シャッター羽根が開きます。シャッターボタンを離すと、シャッター羽根が閉じます。

シャッターボタンを押してシャッター羽根が開くと、シャッターやカメラ内部の電子回路は無通電状態となります。したがって、電池は消耗しませんので、天体写真などの長時間露出でも電池の消耗を気にせずに撮影できます。

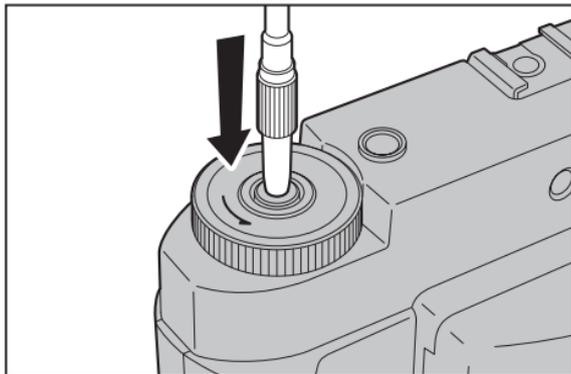
フラッシュ撮影

レンズシャッターなので、全シャッタースピードに同調します。

■ クリップオンタイプの小型フラッシュを使用する場合

カメラ上部のホットシューにフラッシュを取り付けます。

■ ホットシュー接点のないフラッシュを使用する場合

シンクロコードをカメラのシンクロ接点に接続してください。

ケーブルレリーズの接続

市販のケーブルレリーズなどを接続することができます。

シャッターボタン中央のケーブルレリーズ
ねじ穴にケーブルレリーズを差し込みます。

被写界深度表

EBC FUJINON 80mm F3.5レンズ

レンズは、ピントを合わせた点を中心に、その前後のある範囲まで鮮鋭な像を結びます。これを「被写界深度」といい、レンズの焦点距離、絞り、撮影距離に応じて変化します。
レンズの被写界深度表示で絞りごとの被写界深度を確認できますが、詳しくは「被写界深度表」をご利用ください。

許容錯乱円　0.05mm　　　単位:m

距離	0.9m	1.0m	1.5m	2.0m	3.0m	4.0m	5.0m	6.0m	10m	20m	∞
F3.5	0.89 ~ 0.91	0.98 ~ 1.02	1.46 ~ 1.55	1.92 ~ 2.09	2.80 ~ 3.23	3.65 ~ 4.44	4.45 ~ 5.71	5.22 ~ 7.07	7.97 ~ 13.48	13.18 ~ 42.17	37.96 ~ ∞
F4	0.89 ~ 0.92	0.98 ~ 1.02	1.45 ~ 1.55	1.91 ~ 2.10	2.78 ~ 3.26	3.61 ~ 4.49	4.40 ~ 5.80	5.15 ~ 7.22	7.80 ~ 14.03	12.70 ~ 48.1	34.17 ~ ∞
F5.6	0.88 ~ 0.92	0.97 ~ 1.03	1.43 ~ 1.58	1.87 ~ 2.15	2.70 ~ 3.38	3.47 ~ 4.73	4.19 ~ 6.22	4.86 ~ 7.88	7.14 ~ 16.86	11.03 ~ ∞	24.18 ~ ∞
F8	0.87 ~ 0.93	0.96 ~ 1.04	1.40 ~ 1.61	1.82 ~ 2.22	2.59 ~ 3.57	3.29 ~ 5.12	3.93 ~ 6.93	4.51 ~ 9.07	6.39 ~ 23.60	9.32 ~ ∞	17.15 ~ ∞
F11	0.86 ~ 0.95	0.95 ~ 1.06	1.37 ~ 1.67	1.76 ~ 2.33	2.46 ~ 3.88	3.08 ~ 5.80	3.61 ~ 8.27	4.09 ~ 11.54	5.57 ~ 55.08	7.64 ~ ∞	12.17 ~ ∞
F16	0.84 ~ 0.97	0.93 ~ 1.09	1.32 ~ 1.75	1.68 ~ 2.50	2.29 ~ 4.42	2.81 ~ 7.17	3.25 ~ 11.41	3.62 ~ 18.88	4.72 ~ ∞	6.11 ~ ∞	8.65 ~ ∞
F22	0.82 ~ 1.00	0.90 ~ 1.13	1.26 ~ 1.88	1.57 ~ 2.80	2.09 ~ 5.53	2.51 ~ 10.78	2.85 ~ 24.97	3.13 ~ ∞	3.90 ~ ∞	4.78 ~ ∞	6.16 ~ ∞

カメラの保守・点検、取扱上のご注意

■ 撮影前にカメラの点検を

本番撮影に際しては、フィルムを装てんする前に、必ず下記部分の点検を励行するようお願いします。

① フィルムの巻き上げ
裏ぶたを開け、フィルム巻き上げダイヤルがスムーズに動作するとともに、フィルム巻き取り室にあるスプールの受け具が確実に動作することを確認します。

② 裏ぶた内部
裏ぶた、本体内部の各ローラー計３本がスムーズに回転し、また確実に取り付けられていることを確認します。それから、フィルムが確実に給送されること、巻き取り室にあるフィルム押さえばねが適当なばね圧で取り付けられていることを確認します。

③ 距離計
ファインダーの二重像で、無限遠(∞)と近距離のピント合わせを行い、レンズの距離目盛りがそれぞれ無限遠(∞)と近距離に位置しているかを確認してください。

④ シャッター
裏ぶたを開けて、空シャッターを切ったとき、それぞれのシャッタースピードで作動することを確認してください。

⑤ 絞り
裏ぶたを開けて、絞りリングを回したとき、確実に絞り羽根が動作することを確認します。

⑥ シンクロ同調
フラッシュをセットしたら、裏ぶたを開け、絞りは開放、シャッタースピードを使用する値にしてください。空シャッターを切ったとき、確実にレンズから光が入り、同調することを確認してください。

⑦ 露出表示
シャッターボタンを半押しして、絞り、シャッタースピード、フィルム感度を変えたとき、ファインダー内表示が確実に変わることを確認します。

常に安心して使用するためにも、撮影前の点検と定期的なオーバーホールを行ってください。

■レンズの清掃の仕方

レンズのすり傷は、皆様がご想像する以上に、シャープネスの劣化につながります。なんとなくコントラストが低下し、しまりのない写真になったら、レンズのすり傷が原因になっていることが考えられます。
そこで、レンズの清掃は、以下のように注意深く行ってください。

① レンズ表面のゴミ、ホコリをブロアーブラシで吹き飛ばしてください。
② クリーニングペーパーに市販のレンズクリーニング液を浸して、軽くレンズの周辺に向かって、回しながらふき取ります。
③ レンズの汚れが取れたら、乾いたクリーニングペーパーで、レンズクリーニング液のふきむらを、レンズの中心から周辺に向かって、回しながらふき取ります。

レンズにゴミ、ホコリなどが付いているとき、息を吹きかけてシリコンクロスなどでふくことは絶対に避けてください。すり傷発生の原因となります。

⚠ カメラをぬらしたり、ぬれた手で触ったりしないでください。

■カメラの清掃について

- 汚れをふき取るのに、シンナー、アルコールなどの溶剤は使用しないでください。
- 撮影前後に、カメラの清掃を行ってください。ブロアーブラシでホコリを払い、カメラの外側はシリコンクロスなどの柔らかい布でふいてください。
- フィルム室に汚れやホコリがあると、フィルムを傷つけることがあります。特にカメラ内部の清掃は常に心掛けてください。

■フィルムの出し入れについて

フィルムの出し入れは、必ず直射日光を避け、日陰などで行ってください。

■電池について

- 低温下では、電池は性能が低下する性質を持っています。常温に戻れば性能は回復します。低温下での撮影には、新しい電池を使用し、予備の電池をポケットなどに入れて、温めながら交互に使うなどの方法をとってください。消耗した電池では、低温時、カメラが作動しなくなることがあります。

■使用温度範囲

このカメラの使用温度範囲は、－10℃～＋40℃です。

■保管について

- 夏期は、高温の自動車の中や湿気のある場所に長時間保管しないでください。
- カメラを保管するときは、湿気、ホコリ、熱の影響のないところに収納してください。
- ナフタリンなど防虫剤のガスは、カメラにもフィルムにも有害ですから、たんすなどへの収納は避けてください。

アフターサービスについて

お手持ちの製品が故障した場合には、次の要領で修理させていただきます。ご購入店または富士フイルムサービスステーションに直接お申し出ください。それ以外の責は、ご容赦いただきます。なお、保証、使い方などのご不明な点につきましても、裏面に記載の富士フイルム フィルムカメラお客様相談窓口か富士フイルム修理サービスセンターまたはお近くの富士フイルムサービスステーションをご利用ください。

● 無料修理

故障した製品についてはご購入年月、販売店名の記入された、ご購入日より1年以内の保証書が添付されている場合には、保証書に記載されている内容の範囲内で、無料修理させていただきます。

＊ 詳しくは、保証書に記載されている製品保証規定をご覧ください。

● 有料修理

保証期間を過ぎた修理は、原則として有料となります。保証期間内であっても、下記のような場合はすべて有料となります。また運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。

1. 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
2. 保証書にご購入年月、販売店名が記入されていない場合、または記載事項が訂正された場合。
3. 富士フイルムサービスステーションまたは富士フイルム修理サービスセンター以外で分解、修理されたもの。
4. 火災、地震、風水害などの天災による損傷、故障。
5. お取扱上の不注意(使用説明書以外の誤操作、落下、衝撃、水掛かり、砂･泥の付着、カメラ内部への水･砂･泥の入り込みなど)、保管上の不備(高温多湿やナフタリン、しょうのうの入った場所での保管)、お手入れの不備(かび発生など)により生じた故障。
6. 前記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。
7. 各部点検、精密検査、分解掃除などを特別に依頼されたもの。

● 修理不能

浸(冠)水、強度の衝撃、その他で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの、および部品の手当が困難なものなどは修理できない場合もありますので、富士フイルム修理サービスセンターまたはお近くの富士フイルムサービスステーションにお問い合わせください。

● 修理部品の保有期間

この製品の補修用部品は、製造打ち切り後10年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。なお、部品保有期間終了後でも修理できる場合もありますので、詳しくはご

購入店か富士フイルム修理サービスセンターまたはお近くの富士フイルムサービスステーションにお問い合わせください。

● 修理ご依頼に際してのご注意

1. 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添えてください。
2. ご購入店や富士フイルム修理サービスセンターまたは富士フイルムサービスステーションで、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。故障の状態によっては、事故となったフィルムなどを添えてくださると修理作業の参考になります。
3. 修理箇所のご指定がないときは、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
4. 修理料金が高く見込まれる修理のときは「○○○○円以上は連絡してほしい」と金額をご指定ください。ご指定のないときは、12,000円以内の料金で修理完了する場合は修理を進めさせていただきます。
5. 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
6. 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱などに入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。

主な仕様

形式	6×7cm判 距離計連動式 蛇腹折りたたみ式カメラ
画面サイズ	6×7cm／6×6cm判 画面サイズ切り替え式
実画面サイズ	6×7cm判：56mm×69mm　6×6cm判：56mm×56mm
使用フィルム	120/220ロールフィルム
撮影枚数	6×7cm判　120：10枚撮り、220：20枚撮り 6×6cm判　120：12枚撮り、220：24枚撮り
撮影レンズ	EBCフジノンレンズ　f=80mm　1:3.5 4群6枚構成
絞り	F3.5～F22
対角線画角	6×7cm判：57°（35mm判 40mm相当）　6×6cm判：53°（35mm判 44mm相当）
距離合わせ	手動式直進ヘリコイド（全体繰り出し）
撮影距離	0.9m～∞
ファインダー	二重像合致式距離計内蔵採光式ブライトフレーム 6×7cm／6×6cm判画面切り替えでブライトフレーム自動切り替え
倍率	0.7倍
基線長	37.0mm（有効基線長：25.9mm） パララックス自動補正
視野率	3m：88％
視度補正	接眼枠（M19ねじ）に視度補正レンズ装着可
ファインダー内表示	LEDの露出表示（A・シャッタースピード） 絞り優先AE時：A、適正シャッタースピード マニュアル露出時：A消灯、適正シャッタースピード点灯、 　適正露出外のシャッタースピードを設定した場合は点滅 　連動範囲外：“500”または“4s”が点滅 バッテリー電圧警告：設定表示が速く点滅

シャッター	電子制御式レンズシャッター(スピード制御)
シャッタースピード	B、4秒〜1/500秒　(ただし、絞り開放、F4のとき:1/250秒、F5.6以上のとき:1/500秒)
シンクロ	X接点、全速同調 シンクロターミナル、ホットシュー付き
露出制御 連動範囲	中央部重点平均測光　受光素子:SPD EV0.5〜18(ISO100)
撮影モード	絞り優先AE、マニュアル露出　(定点合わせ) AEロック:シャッターボタン半押し
露出補正	±2　1/3ステップ刻み
フィルム感度	手動セット　ISO25〜3200(1/3ステップ刻み)
フィルム装てん	手動
フィルム給送	ダイヤル式巻き上げ 巻き上げ角度:最大442°〜最小238°
フィルムカウンター	機械式 120/220フィルム両用　フィルム圧板スライドで120/220フィルムのカウンター自動切り替え 6×7cm/6×6cm判画面サイズ切り替えでカウンター自動切り替え 裏ぶた開で自動リセット
電源	リチウム電池 CR2　1本
その他	三脚ねじ穴、ケーブルレリーズねじ穴、フィルムインジケーターポケット
大きさ	178mm(W)×109mm(H)×138mm(D)　折りたたみ時:64mm(D)
質量(重さ)	1,000g(電池別)

＊ 仕様・性能は、予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

FUJIFILM

富士フイルム株式会社　〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

●お買い上げ製品についてのお問い合わせは…

富士フイルム フィルムカメラ お客様相談窓口

ナビダイヤル 市内通話料でOK® **0570-00-2236**

※呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、092-432-0307

受付時間：月曜日〜金曜日 9:00〜17:00　※土・日・祝日・年末年始を除く

●お買い上げ製品の修理受付に関するお問い合わせは…

フィルムカメラ 修理相談窓口

050-3786-1640

受付時間：月曜日〜金曜日 9:00〜17:40　※土・日・祝日・年末年始を除く

FAX 050-3786-2050

受付時間：24時間（返答対応は電話の受付時間と同一です）

●富士フイルム製品のお問い合わせは…

お客様コミュニケーションセンター　TEL（03）5786-1711

受付時間：月曜日〜金曜日 9:30〜17:00　※土・日・祝日・夏季休業日・年末年始・5月1日を除く

富士フイルム ホームページ　http://fujifilm.jp

※富士フイルムグループでは、お客様からのお問い合わせ内容を正確に把握するために録音させていただくことがあります。
※電話等の応対でお客様から取得した個人情報は、後日、お問い合わせに関するアンケートをお願いする際に使用する場合があります。

FPT-902105-Ⓚ-03